

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 01-002

PDCA	事務事業名	国際交流事業	部課等名	企画部 秘書課 秘書担当	担当	犬塚	
					内線等	216	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節 第3節 共生社会の形成					
		基本施策 2. 多文化共生社会の形成					
		単位施策 (2) 国際交流の推進					
		個別施策 ①姉妹友好都市交流の推進と市民間交流の活性化					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	市民の異文化理解の促進と、在住外国人の日本の文化や生活習慣の理解促進による多文化共生社会の実現。					
	目的を達成するための手段・活動内容	国際交流に関係する各団体と連携し、在住外国人の支援事業や姉妹友好都市を始めとする諸外国の人々との交流事業を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	: 単位	
		①ミッドランド市との交換生徒の派遣・受入	3	3	3	人	
		②在住外国人人数(2019年4月1日現在)	3,202	3,698	4,185	人	
		③外国人日本語教室「さくら」開催回数	45	45	43	回	
		事業費	4,884	4,772	4,797	千円	
		人件費	5,718	4,124	4,060	千円	
		総事業費	10,602	8,896	8,857	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	: 単位	
	①外国人日本語教室「さくら」一回当たりのコスト	22,870	15,500	5,981	円		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	: 単位	
		①外国人日本語教室「さくら」受講者延べ人数	実績値	2,730	2,944	2,345	人
			目標値	1,300	1,300	2,500	
②国際交流ボランティア登録数		実績値	310	320	328	人	
		目標値	300	300	350		
③ミッドランド市への交換生徒派遣応募人数		実績値	10	—	10	人	
		目標値	15	—	15		
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある	※手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	C 国際交流団体と連携し、姉妹都市からの高校生派遣、書画展の開催など、市民の国際理解に向けた取り組みを推進してきたが、目標値には届かなかった。日本語教室受講者数の減少は、例年より開催回数が少なかったこと、また体験研修が中止になったことが要因と考えられ、新たな受講者も増えていることから、ニーズの減少ではないととらえている。 また、在住外国人人口は増え続けており、地域からの課題や問題もそれに比例して増加しており、生活支援に関する対応が課題となっている。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 国際交流団体との情報共有に努めるとともに、在住外国人が安心安全に生活することができるよう、令和元年度に多文化共生推進計画を策定する。また、交流イベントやミッドランド市交換生徒受入、徐州市とのフレンドシップ交流等を通じ、市民が多文化に触れ、考える機会をつくり、多文化共生社会の実現に向け積極的に取り組んでいく。				
		令和元年度の目標	成果指標	目標値	: 単位		
			①外国人日本語教室「さくら」受講者延べ人数	2500	人		
			②国際交流ボランティア登録数	350	人		
	③ミッドランド市への交換生徒派遣応募人数	—	人				